

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」富士宮校		
○保護者評価実施期間	R6年 11月 5日		R6年 12月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	R6年 11月 18日		R6年 12月 2日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1月 6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	幼稚園や保育園で勤務していた現場経験のある職員がいること。	経験のある職員より「保育園・幼稚園」の様子を知ることができ、かつ子どもの基本的な発達段階を共有しながら子どもたちの状態を把握、支援の検討を行うことでより適切な支援が提供できるよう話し合い・改善を行っている。	経験のある職員に頼りきりにならないよう、他職員も知識や技術の研鑽を積み重ねて行くことのできる研修の場を設けている。
2	体を動かすのに十分な支援室があること。	建物内が広いこと、個別・少人数での支援であるため他者とぶつかる心配が少なく思いっきり身体を動かせる環境下にある。また、子どもたちが遊びながら学ぶことのできるツールも充実しており「楽しい」「できた」という気持ちを得やすい状況を作っている。	現状あるツールだけで満足せず、都度必要とされる環境について検討・取り入れていく姿勢を持ち続けていく。今年度も職員間で必要と感ずるものがあれば積極的に情報共有・検討を行い何度も新たなものを導入している。
3	個別支援が主であるため子どもたちと支援者との愛着形成に力を入れており、より安心した時間の提供・承認欲求の充電に繋げることができる。	子どもたちと常に一緒に過ごし、園や家での頑張りを受容しながら褒める機会をより多く持つよう心がけて支援を行っている。「認められる経験」「褒められる経験」を積み重ねていくことで頑張るエネルギーの充電、興味・幅の拡大を目指している。	保護者を交えた支援も都度取り入れている。保護者との愛着形成や愛情で満たされる経験も重要である。保護者から褒められたり、頑張り認められたりする経験ができる場の設定を目指していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別療育であるため、小集団での現れが把握しにくいこと。	個別療育を行っているため、きらりでは落ち着いて過ごせることが多い。ただ、他事業所や園の様子をお伺いするとまた異なる言動の表出があることを知る機会が多々見受けられている。	園訪問を行い小集団での本人の様子を把握すること、保護者様と密な情報共有を行い、より本人の特性に合った支援が提供できるよう工夫を行っていく。
2	小さい子どもたち向けの環境整備が行き届いていない。	クッションやマットを部屋に用意、幼児向けの便座や手洗いの台等整備は進めてきているものの、まだまだ足りないと感じる部分がある。支援の状況や業務内容に終われ対応しきれていない。	環境整備のための時間を明確に設定し、話し合いを積み重ねながらより良い支援を行うことのできる環境整備を積極的に進めていく。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子どものサポート教室「きらり」富士宮校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 4

回収数 4

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	4					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	4					
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	2	1		1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	3			1		
適切 な 支 援 の 提 供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	4					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	3			1		
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	4					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	3			1		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	4					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	3			1		
	11	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	2			2		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	4					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	4					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2			2		
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	4					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	4					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	4					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2			2		
19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	3	1					

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	4				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	3			1	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	3			1	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	3	1			
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3	1			
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	4				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	4				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	4				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	4				
	29	事業所の支援に満足していますか。	4				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」富士宮校				公表日	2025年 2月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		利用者様それぞれの特性に合わせて教室を使い分けている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		法令上必要となる人数より1名以上多く配置している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		必要に応じて持ち運びができるスロープを設置する等の対応をしている。	事業所内設備に関して可能な限り改善に取り組んでいく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		毎朝清掃と消毒を行い、清潔で心地よい環境作りに努めている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		利用者様の特性や状況に合わせた支援室の使用ができるよう環境を整えている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		支援報告を都度行い個別目標に対して支援内容が適切であるか等の確認や提案ができるような体制を整えている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		職員間で保護者様の意向を共有する場を設け今後の業務改善に努めている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		都度職員間で意見交換ができる環境作りを行い業務改善に努めている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>		第三者評価を受けていないため、本部と協議の上行うか検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		定期的に内部研修や外部研修の機会を設けている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>			個別の内容に沿って支援プログラムを構築しているため現段階で公表はしていないが、来年度から公表をしていく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		保護者様と利用者様のニーズのヒアリングやアセスメントを適切に行った上で、計画の作成を行っている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		指導員と児童発達支援管理責任者で会議を開き、共通理解のある計画作成を行っている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		計画内容に沿った支援内容の構築を行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		標準化されたアセスメントツールを使用し、客観的なアセスメントを取ることができるよう努めている。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		左記の支援に関して個別の支援計画に盛り込んでいる。保護者様と利用者様にヒアリングを行うことで、適切な支援ができるように努めている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		チームで都度話し合いを行い、立案をしている。様々な意見を取り入れやすい環境になっている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		利用者様の様子、ニーズ、課題について都度検討し場面に合わせて内容を変化させている。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		基本は個別療育であるが、利用者様それぞれの特性や状況に合わせて個別と集団の療育を適宜組み合わせている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		最近の利用者様の様子を職員間で共有した上で支援内容について検討をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		報告会を行い情報共有に努めている。就業時間間際まで支援していた場合は翌営業日に共有をしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録を残し全体でいつでも情報共有や確認ができるシステムになっている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的に面談、アセスメントを行い、計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理者・管理者の他、担当指導員も参加する等、ふさわしい者が参加できるようにしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関と都度情報共有を行う等して、連携体制を整えている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		情報共有を都度行い、相互理解を図ることができるように努めている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		事業所で行ったこと、計画、モニタリングについて書面にし、保護者様を通して情報共有を行っている。	移行会議があれば積極的に参加していきたい。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		児童発達支援センター等、必要に応じて助言をいただいている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			今後必要に応じて検討する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		毎回支援後に保護者様と話し合う時間を設け、共通理解に努めている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			相談を受けた際は時間を設けて話し合いを行い、出来得る範囲での助言、支援を行える環境を整えている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時、変更時には都度書面にて説明をしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点等を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者様と利用者様の意向を尊重し、支援を行っている。また、都度意向の確認を行っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		毎回計画を示しながら、支援目標や内容の説明を行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		ご相談のある際は出来得る範囲内での助言、支援を行える環境を整えている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		イベントを通して実現出来るよう、運営に努めていく。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	苦情受付体制を整えるとともに、受付窓口を設定している。苦情をいただいた際には、迅速かつ適切に対応をしていく。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○	事業所内掲示やInstagram、ブログ等で情報発信を行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	個人情報の含まれる書類等は鍵付きロッカーに保管し、取り扱いにも留意している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	個々の特性に合わせた情報伝達方法を用いている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		今後イベントを通して実現出来るように検討をしていく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	マニュアルを策定しいつでも閲覧できる状態にしている。	今後はより保護者様が閲覧しやすい設置方法を検討していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	毎月様々な場面を想定し訓練を行っている。訓練後、職員間で意見交換を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○	保護者様にヒアリングを行い基本情報の更新を毎年行っている。また、都度利用者様の状況把握を行っている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食事の提供を行っていない。契約時にアレルギーの確認を行っている。該当物質がある場合は配慮を行う。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	利用者様にも訓練や研修に参加していただく機会を設けている。また、安全管理のされた支援を提供している。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	避難場所の周知や安全計画に基づいた内容を保護者様に周知をしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	ヒヤリハットが起こった際には報告書を作成、今後の運営に活かすことができるよう職員同士で共有を行っている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	マニュアルを策定し研修を行っている。また、外部研修を受けた際の情報共有もしている。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	契約時に保護者様へ説明を行っている。身体拘束について、行う必要性が出てきた場合には、検討をしていく。		